

実践シートを活用し、保護者を多面的に捉えることを学びたい

<交流会の内容>

- ☆講話「高知県の保護者とともに育みたい資質・能力について」
- ☆3つの事例(1歳児、3歳児、4歳児)について事例研修を行う。
 - ・各グループに事例提供者が入り、対象児や家庭についての質疑応答をしながら情報共有をし、発達の課題や原因・背景を探っていく。
 - ・今後必要な支援を考える。

交流会参加は17名。
他地域からの参加もありました。



講話の始まりには、アドバイザーの先生から絵本『おかあさんごめんなさい』の読み聞かせがありました。



参加者より

- ・子どもの気になる姿だけでなく、良さにも目を向け、話し合いに参加することができた。
- ・他園の先生と一緒に研修することで、多面的な視点から様々な支援方法を探ることができた。
- ・園だけでは捉えきれない内面や背景を探ることができた。
- ・自園の保護者にもあてはまる場所もあり、色々な多視点から支援方法を考えることができた。

地域リーダーより

- ・同じグループの参加者と話し合う中で、子どもの気になる姿が、見方を変えることで順調に育っている姿として捉えることができ、喜ぶべき発達の一面であることに気付けたのがよかった。
- ・リーダーとして交流会に参加することで、年々学びや気づきが得られている。

アドバイザーより

- ・どのグループも、子どもにとっての最善の利益を考えながら話し合うことができていた。
- ・自分自身の経験も振り返りながら、チームで取り組むことの大切さや、保護者の気持ちに思いを寄せることの大切さを改めて感じた。
- ・保護者に子どものよさや成長を伝えていくことで、子どものことをより愛おしく感じてもらえるようにしてほしい。